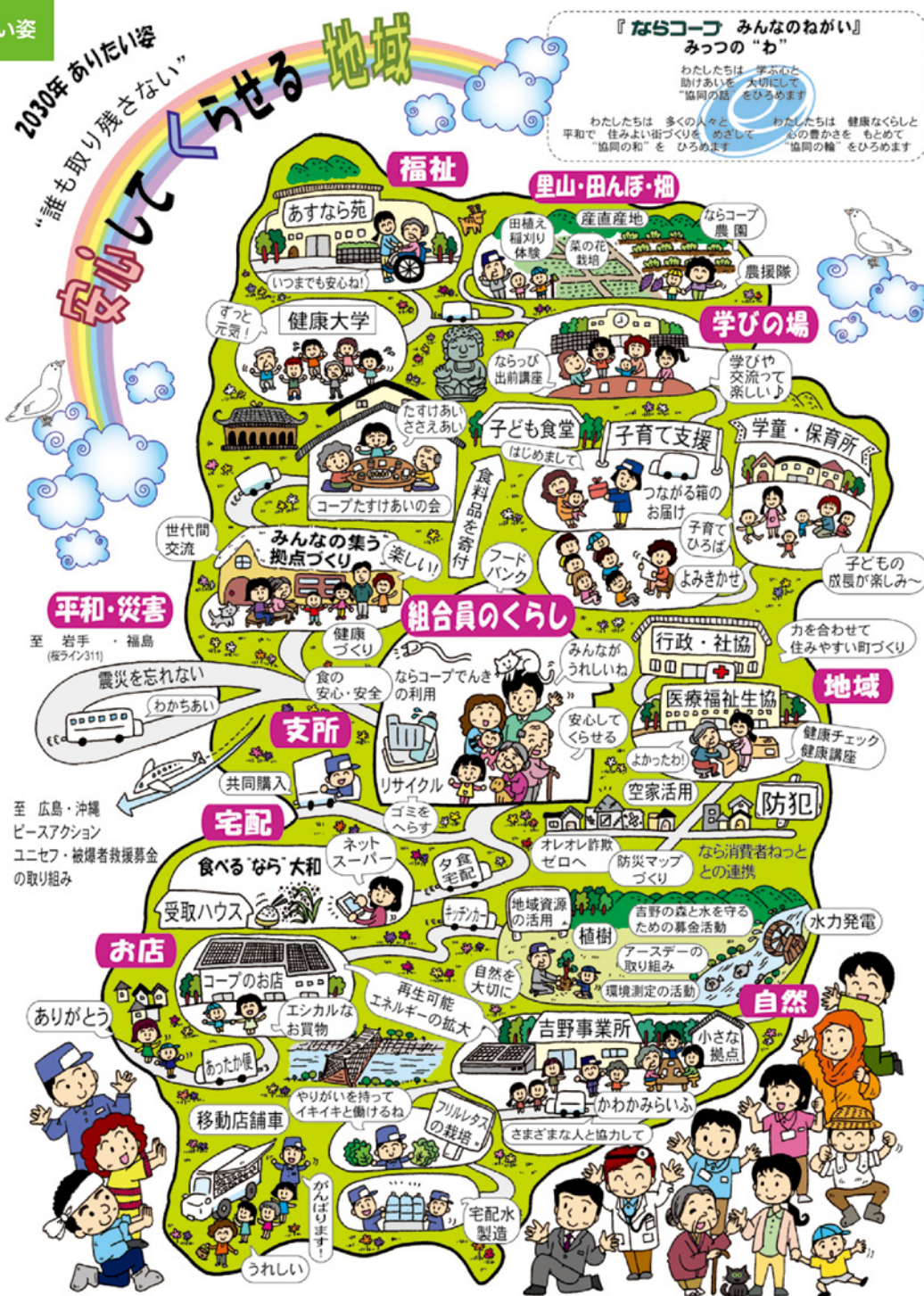


# ならコープ第13次中期計画ダイジェスト

「たすけあい・ささえあい・わかちあい～みんなが笑顔でくらすために～」

ありがたい姿

2030年 ありがたい姿  
“誰も取り残さない”



『ならコープ みんなのねがい』  
みつの“わ”  
わたしたちは 学ぶ心を 大切に  
助けあいを 大切にして “協同の輪”をひろめます  
わたしたちは 多くのひとと 心を豊かに  
平和で 住みよい街づくりを めざして “協同の和”をひろめます  
わたしたちは 健康な暮らしと “協同の輪”をひろめます

平和・災害  
至 岩手・福島  
(仮ライン311)

至 広島・沖縄  
ピースアクション  
ユニセフ・被爆者救済募金の  
取り組み

## ■第13次中期計画の方向性

長期的な目標として「多数者生協」を実現することで組織と事業の拡大強化をはかり、加入率が過半数に到達した今後も地域社会の発展のために組織と事業の拡大と民主的な運動のバランスをとりながら30万世帯以上の加入をめざして仲間づくりを継続し生協運動を推進します。

奈良県に深く根ざした生協をめざし、創立以来大切にしてきた食の安心・安全の確保、環境をまもり平和をたもち続けていくことを推しすすめるとともに社会的使命としてSDGs推進を積極的に取り組みます。

ならコープのシンボルマークに込められた「三つのわ」(話、輪、和)の想いを再認識し、組合員活動および組合員のくらしに貢献する事業と商品づくりを中心に店舗・無店舗事業の垣根をこえてすすめます。

ならコープの2030年ありがたい姿の実現とともに2030環境ビジョンを達成し、さらにその先にある未来を見据えてならコープの2050年ありがたい姿を論議、みんなが笑顔でくらす社会の追求をすすめます。

# ごあいさつ

理事長 吉田由香

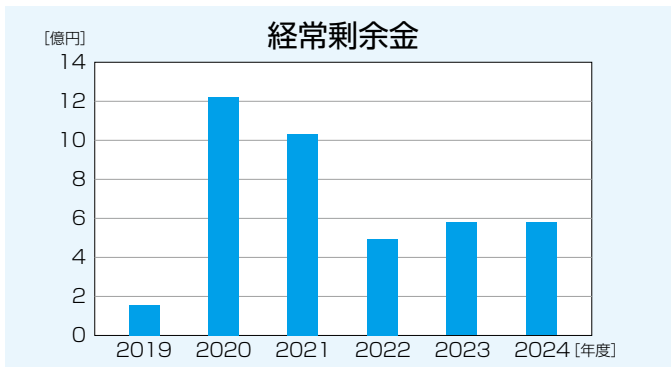
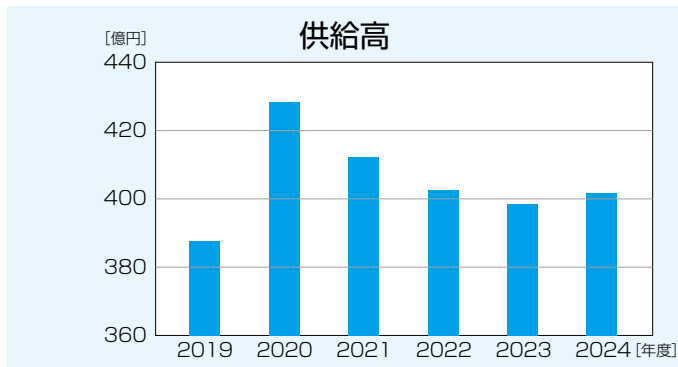
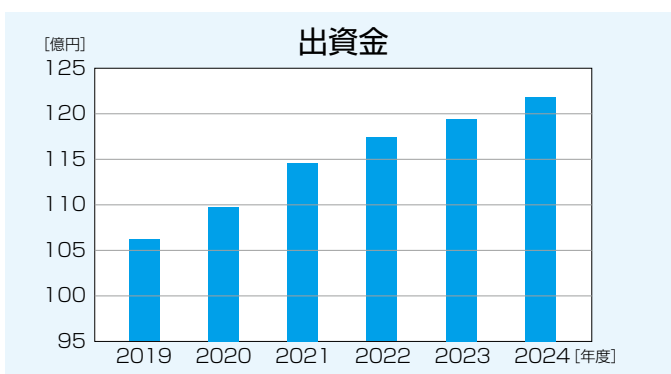
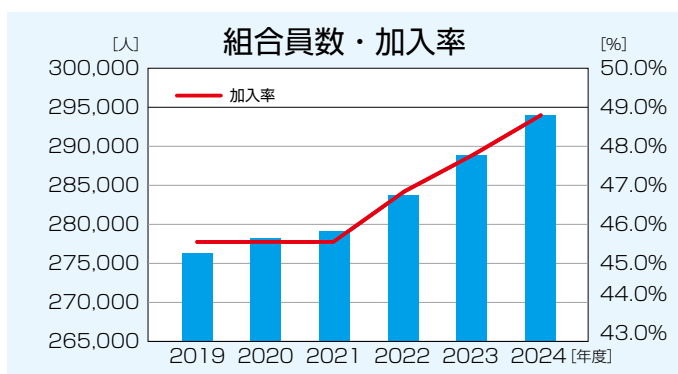
ならコープは、2022年度を起点とする新たな3ヶ年計画（第13次中期計画）を策定いたしました。

前中期計画（第12次中期計画）では、「たすけあい・ささえあい・わかちあい～誰も取り残さない 安心してらせる地域づくりのために～」をテーマに、奈良県におけるならコープの2030年ありたい姿の実現に向けて取り組みました。誰もが予想できなかった新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、人と人が集うことで実現してきた様々な活動や事業は大きな変化を余儀なくされましたが、目的実現に向けて今までの「あたり前」を問い直し、組合員と役職員、関係する方々の協力や工夫によって前進することができました。

ならコープは第13次中期計画の最終年度となる2024年に創立50周年を迎えます。創立以来大切にしてきた平和の理念『よりよい生活は平和であってこそ実現する』を事業と活動のベースにおき、持続可能な社会の実現をめざして様々な取り組みをすすめていきます。50周年の節目を控え、改めて、100年続く生協を目指し、「2030年ありたい姿」の実現に向け、職員、組合員の夢や希望の声、願いを寄せ合いました。「たすけあい・ささえあい・わかちあい～みんなが笑顔でくらすために～」をテーマに、事業構想（店舗・無店舗）、未来に向けた人事構想、デジタル化およびシステム最適化構想、組織運営・連帯と地域づくり構想、農業参入などの新規事業構想、物流構想、2030環境ビジョン推進の分野で検討をすすめ、第13次中期計画を取りまとめました。

地域別総代会議では、投資案件においても概ね理解を得られ、多くの賛同の声をいただきました。特に農業事業参入においては、地域づくり、農福連携、地産地消の推進、食料自給率の向上への寄与に対して多くの期待の声をいただきました。組合員の期待や信頼に応えることを使命として取り組んでまいります。

ならコープの組合員であることを誇りに思い、また、ならコープの職員であることに自信と誇りを持ち、組合員とともに役職員全員の力でならコープをさらに力強く発展させる道筋としてまいります。



## ①事業構想（店舗版）

### ありたい姿（総合地域拠点づくり）



### リアル店舗（価値追求）

ブランド価値（商品MD再構築）

組合員体験型価値（リアル価値）

経済性価値（安価）

利便性価値（買物ストレス解消）

### 事業収益向上・投資について（みらいづくり）

GPR向上（24.37%）

店舗改装・出店計画

経常剰余率

供給高・利用人数・世帯利用高

### SDGs推進店舗（持続可能な地域づくり）

環境対応（7.12.13.14.15）

子育て支援・高齢者支援・買物支援（1.2.3.11）

働き方改革（5.8.9.17）

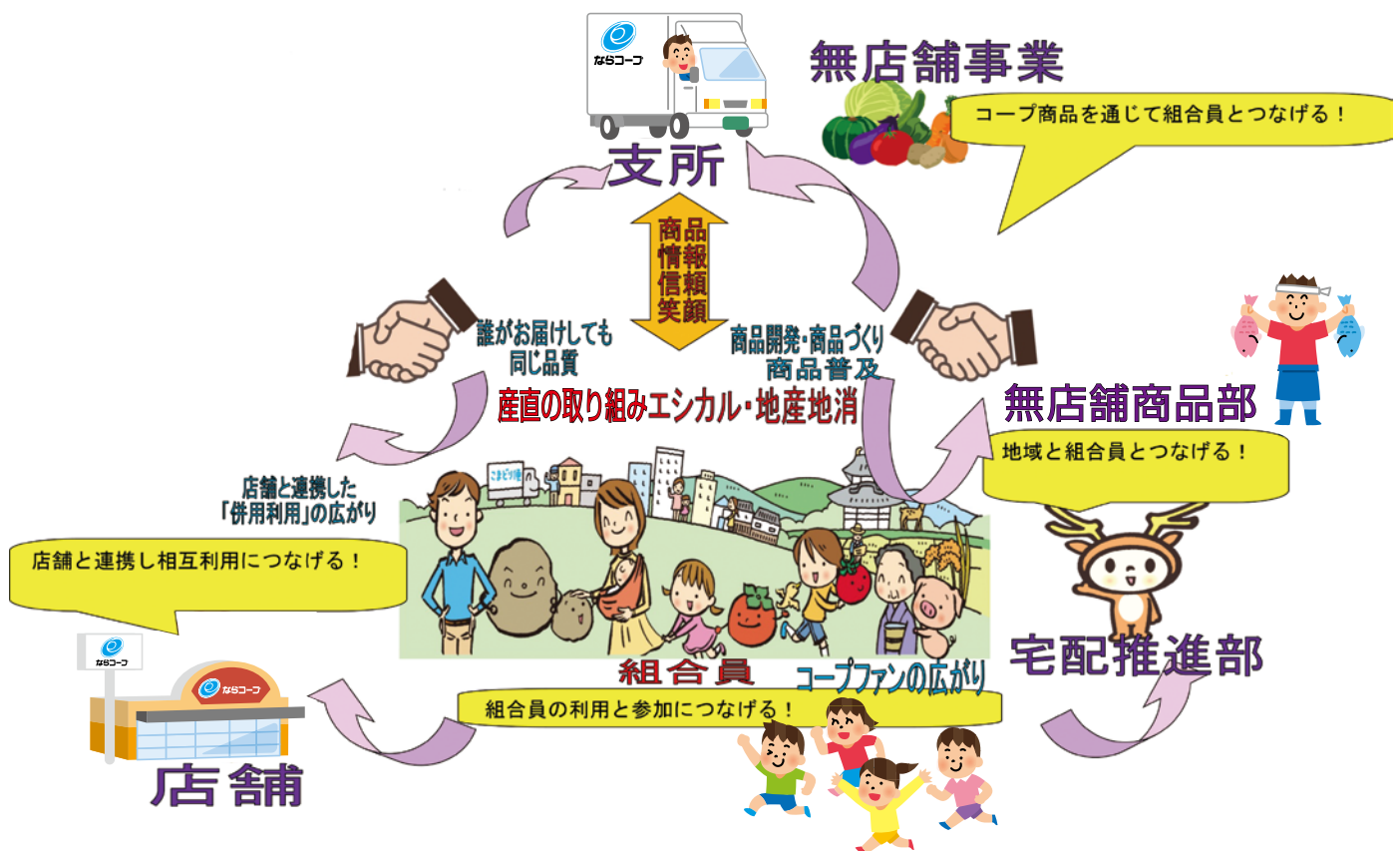
協業・連携（10.11.12.17）

## ②事業構想（無店舗版）

### 2030年ありたい姿を実現するために

#### 【目指したい姿】

- ・ 組合員（ひとりひとり）の生活にもっと寄り添い、支えられる無店舗事業へ
- ・ 事業構造を更に強めて、組合員に安心して使い続けてもらえる無店舗事業へ



- ① SDGs視点を大切に、生協の良さや価値を伝え、子育て世帯とともに高齢者世帯でも利用し続けられる商品やしくみの構築（健康で、幸せに暮らせる）など、利用を通じて、「生協ファン」をひろげる取り組みに発展させます。
- ② 組合員の暮らしの変化に対応しながら、ラストワンマイルの生活インフラとして暮らしに役立つ事業、お役立ちできる配達品質の向上を目指します。
- ③ それらの活動を通じて、誇りややりがいをもって、イキイキと働き続けられる組織運営を目指します。

協同組合の職員として自信と誇りと責任を持ち、  
笑顔でいきいきと働き続けることを目指して

### 職員のありたい姿

組合員である職員として、「① 笑顔で明るく挨拶しよう！～自分を認め相手を認めます～」

「② 感謝の気持ちを言葉や行動で表そう！～日常の気づきを大切に行動します～」



## 取り組みの視点

【エンゲージメントの視点】 みとめあい

【働き甲斐・遣り甲斐の視点】 ささえあい 【ダイバーシティ・インクルージョンの視点】 わちあい

【人財育成の視点】 たかめあい

【人財活躍の視点】 たすけあい

## ■組織連帯と地域づくり

『商品とくらしを通じて、組合員も職員も幸せになる』

～SDGsの実現へ 3つのわ（話・和・輪）をひろめる  
誰も取り残さない 安心してくらせる地域づくりのために  
『たすけあい・ささえあい・わかちあい』

① 地域の特徴や状況に応じた総合地域拠点、ステーションを通じた地域づくり

- ・吉野共生プロジェクト、地産地消、商品開発・利用運動
- ・行政、地方自治体、および各種団体との連携と協力
- ・コープきんき、日本生協連、協同組合間協同による連帯強化

② 新しい組織運営の発展

- ・活動層の広がり、新しい参加のかたち
- ・エリア活動と全体活動の具体化ならびに事業と活動の連携
- ・行政、地方自治体および各種団体との連携と協力
- ・知って知らせて「伝わる」（心に響く）、くらしに役立つ広報（ブランディング）

③ 組合員主権の協同組合ガバナンス強化

- ・ならコープでの利用と活動参加、活動組合員としての参画
- ・総代選出
- ・組合員理事の選任

キーワード

キーワード

行政との連携、地域貢献、高齢者対応、協同組合間協同、他企業との連携

組合員活動への参画、子育て支援、商品政策（ブランディング）事業との連携、広報

ガバナンス、総代選出、理事定数の見直し、理念教育・職員学習

## ■デジタル化

社会情勢の変化とデジタル化（業務改革改善）に  
求められている課題

### 1. デジタル化およびシステム最適化…

○デジタル化…組合員の利便性向上、業務効率化に資する、データの資源化と最大活用する。

○システム最適化…業務の制度面・運用面（業務手順や管理方法など）を見直し、仕組み共通化・一元化を行うこと。

### 2. コープきんきにおけるシステム最適化構想…

○組合員管理・宅配業務共同化プロジェクトが発足し、業務の共通化を通じ、基幹システムの共同化、システム開発・保守費用の軽減と人材確保および育成を実現する。

### 3. 組合員にどのような価値を提供するか

デジタル化によって実現したい全体像（価値）を策定し、いくつかのフェーズに分けた実行計画を策定し、フェーズごとに全体計画を立て精緻化します。

## 農業参入PJ

### ならコープが農業に参入する意義

#### 五條市阿太地域で地域拠点づくりをする目的

- ① 地球環境保全および耕作放棄地の減少に貢献することが出来ること
- ② 生協での販売により地産地消（運動）が推進できることによって、国内および奈良県内の食料自給率の向上への貢献ができること。合わせて、農業技術の伝承することの一助にもなりえること（※SDGs15番：陸の豊かさを守ること）
- ③ 生産から製造・加工・販売までを一貫した、いわゆる6次産業化を目指し農山（漁）村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組の実現を目指し、地域雇用や地域経済への活性化にもつながること。

## 物流構想PJ

### ならコープ物流の第2期再編計画

ならコープ第12次中期計画 2030年ありたい姿を見据え、「誰も取り残さない 安心してらせる地域づくり」の為に、事業と活動を通じて組合員のくらし貢献と持続可能な社会の実現に貢献し続けていくための環境整備が必要となります。

将来の社会環境を見据え、ならコープ物流の第2期再編計画として事業別に分かれていた物流機能を田原本に集約し、事業部門を横断し総合力を発揮すべく、保有する設備を効率活用できる施設を目指し、改築計画並びに運用方針計画を策定する。

## 2030環境ビジョン推進PJ

### ならコープの2030環境ビジョン



ならコープの2030環境ビジョンのポスター。CO2排出量の削減目標と達成方法、再生可能エネルギーの活用、食品ロスの削減、プラスチック削減、自然由来の包装材の活用、国産の豊かな自然と文化を守り次世代の子世代に引き継ぐための環境にやさしい地域づくりをすすめます。

2030環境ビジョンの考え方（大切にしたいこと）

- 国産の豊かな自然も次世代の子世代に残す
- 大規模生産・大量消費・大量廃棄を使い捨て文化からの脱却
- エネルギー問題・ごみ問題（食品ロス・海洋プラスチック）の解決
- 国産や環境にも持続可能な開発目標（SDGs）の具体化

2050年にゼロエミッションの実現

